

# 北海道駒ヶ岳

## 1 概況

地震活動、噴煙活動は静穏に経過しました。GPS 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が見られます。

## 2 地震活動の状況

21 日に北東山麓のやや深いところ(5~10km)が震源と推定される地震を 1 回観測しましたが、十分な精度が得られなかったため震源分布図にはプロットしていません。山頂臨時点で観測されるごく微小な地震も少ない状態で推移しました。

月別地震・微動回数(A点)

2002~2003年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数	1	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 3 噴煙活動の状況

山麓からの遠望では噴煙は観測されませんでした。

## 4 調査観測の結果

7月28日に調査観測を実施しました。昭和4年火口およびその他の火口の熱活動は低い状態が続いています。

### 【昭和4年火口】

火口内の96年主火口および南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。北側火口縁から赤外放射温度計\*で測定した火口温度の最高は46(測定距離130m)でした。また、赤外熱映像観測\*でも6月と比べて温度分布に大きな変化はありません。

### 【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。

### 【その他】

その他の火口や地熱域でも弱い噴気活動が続いていますが、特に変化はありません。

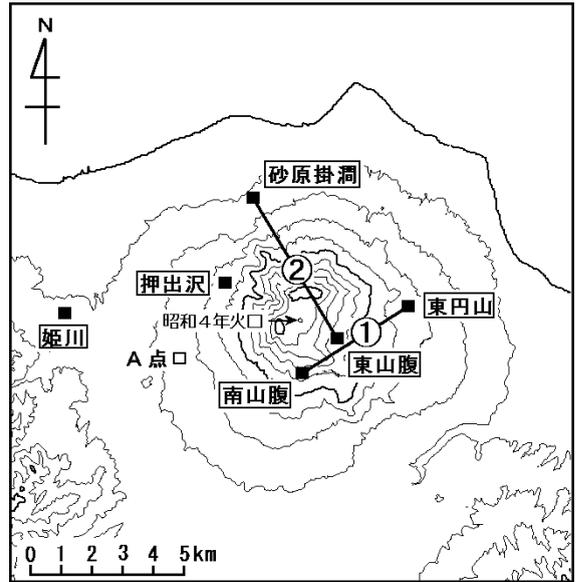
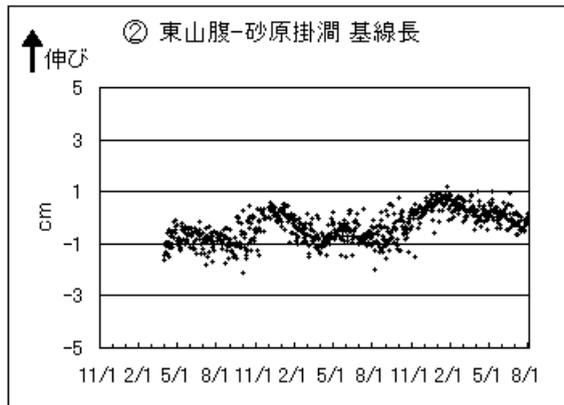
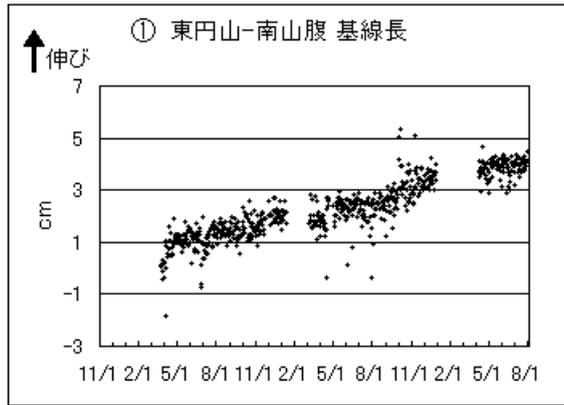


北海道駒ヶ岳山頂火口周辺図

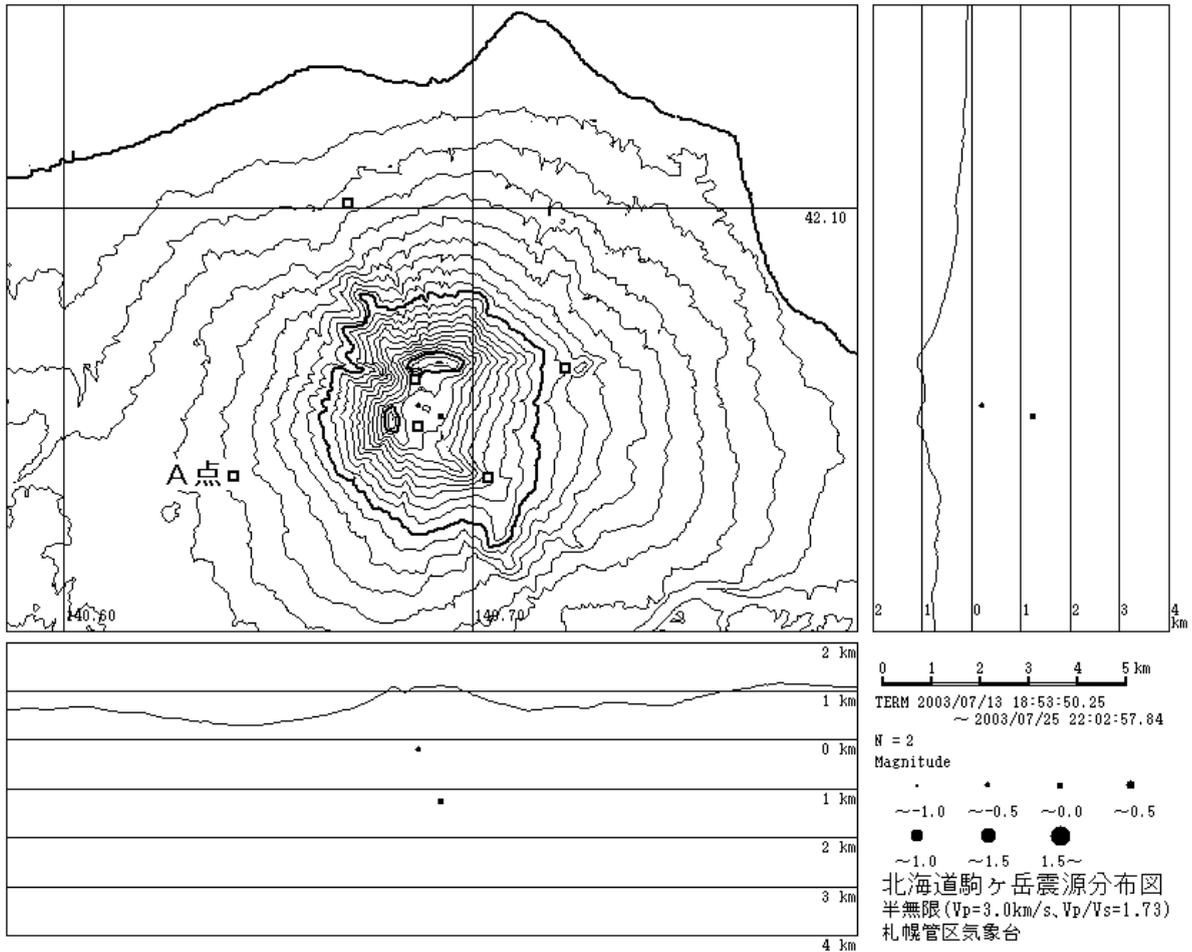
\* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率0.9~1.0に設定しています。

## 5 地殻変動の状況

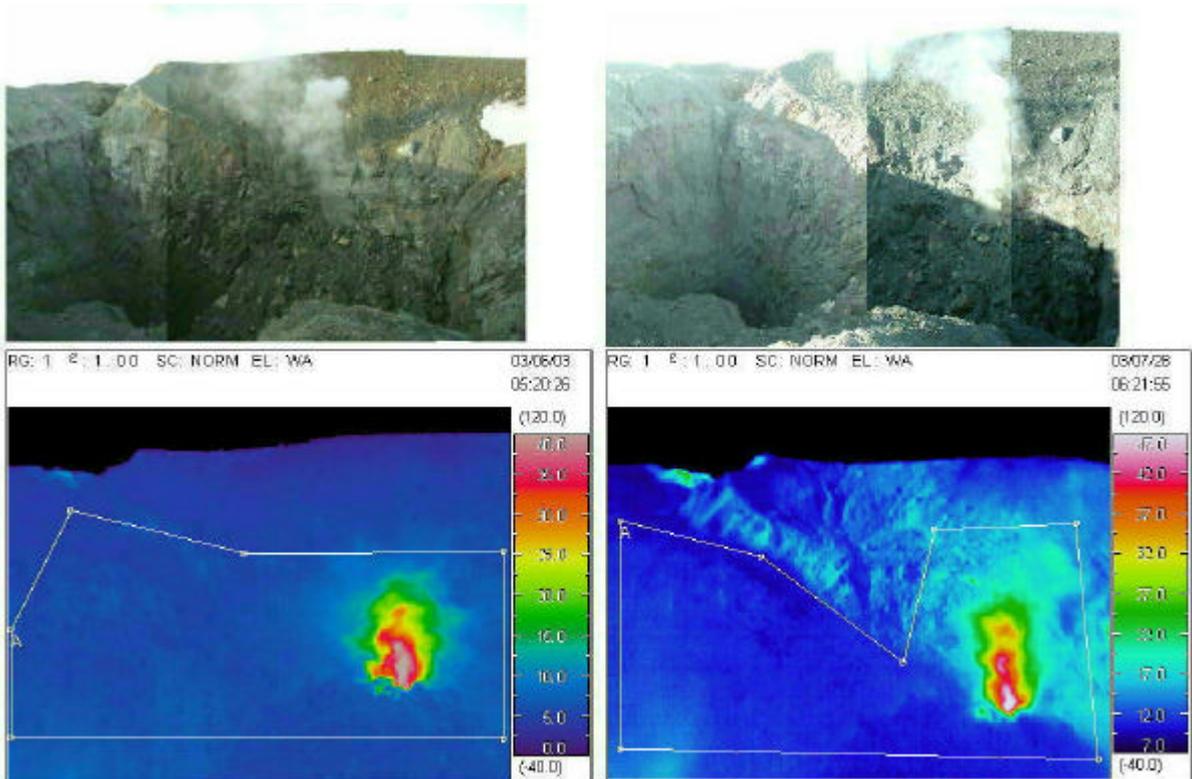
GPS 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が認められます。



北海道駒ヶ岳基線長変化(2000年11月1日~2003年7月31日)



北海道駒ヶ岳震源分布(2003年7月1日~7月31日) 印は地震計

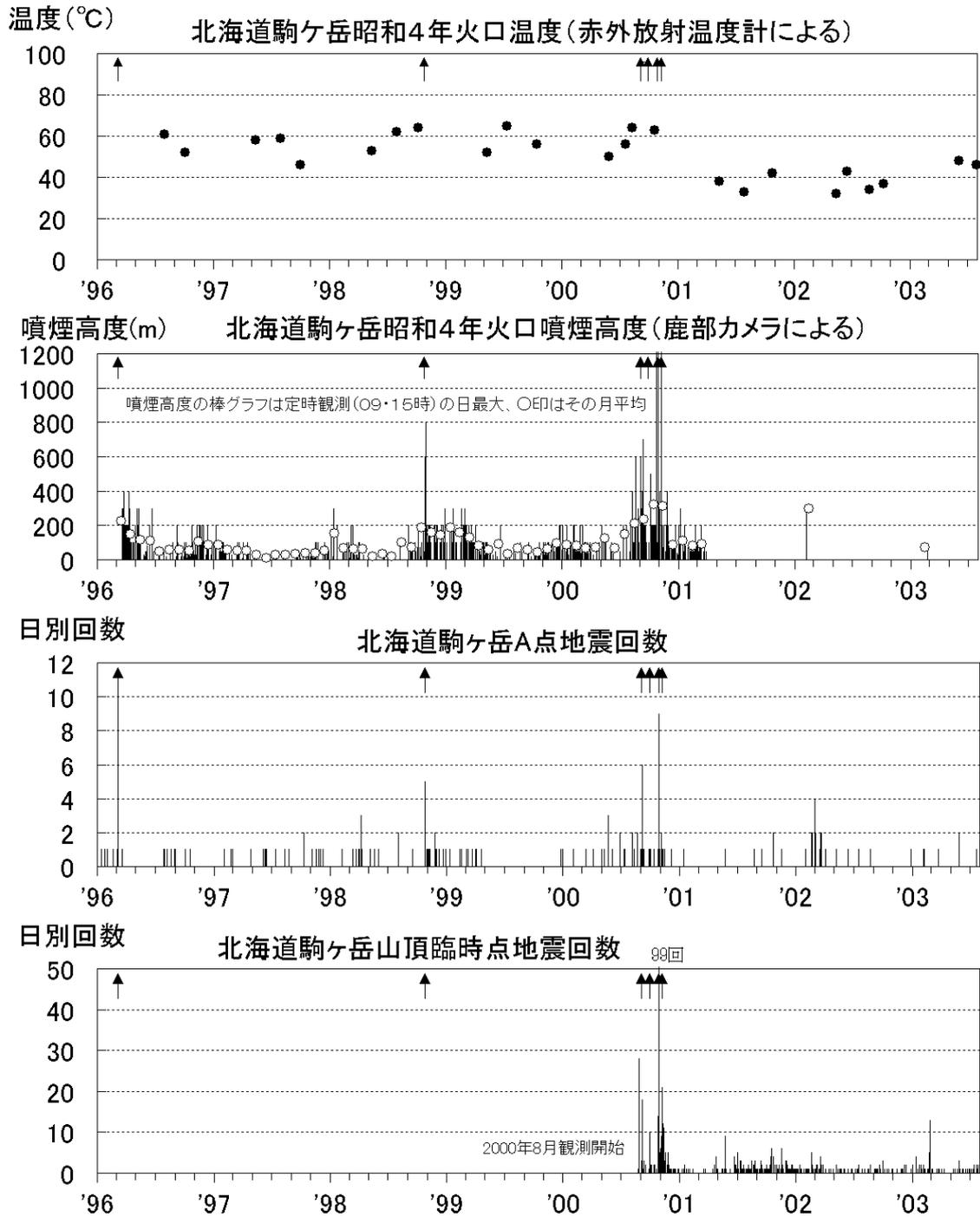


2003 年 6 月 3 日

2003 年 7 月 28 日

北側火口縁から見た昭和 4 年火口の赤外熱映像

7 月 28 日の熱映像では火口壁上部が日射の影響を受けて水色で表現されていますが、南側火口壁(写真中央やや右)の噴気に対応した、相対的に温度の高い領域(黄色~赤)に大きな変化はありません。96 年主火口(写真左下奥の暗い部分)は、熱映像では表現されず活動が低下した状態です。



北海道駒ヶ岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年7月31日) 印は噴火